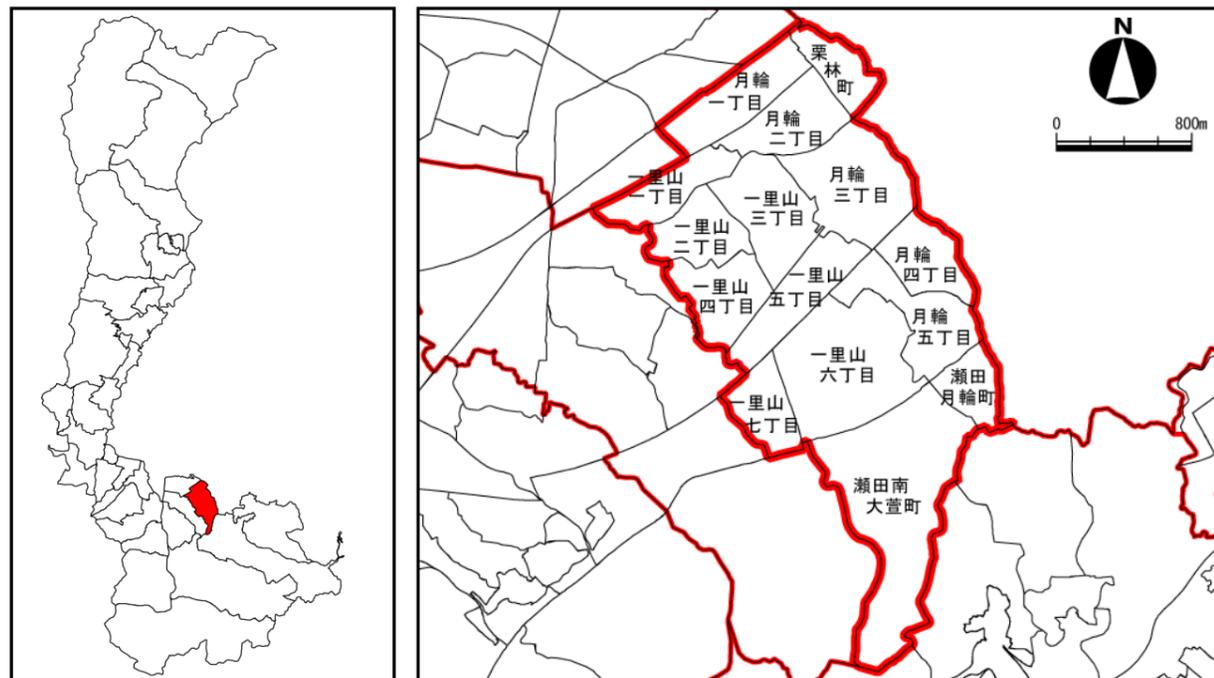


■ 学区の概況



<町丁名>

瀬田南大萱町、瀬田月輪町、一里山一丁目、一里山二丁目、一里山三丁目、一里山四丁目、一里山五丁目、一里山六丁目、月輪一丁目、月輪二丁目、月輪三丁目、月輪四丁目、月輪五丁目、栗林町

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

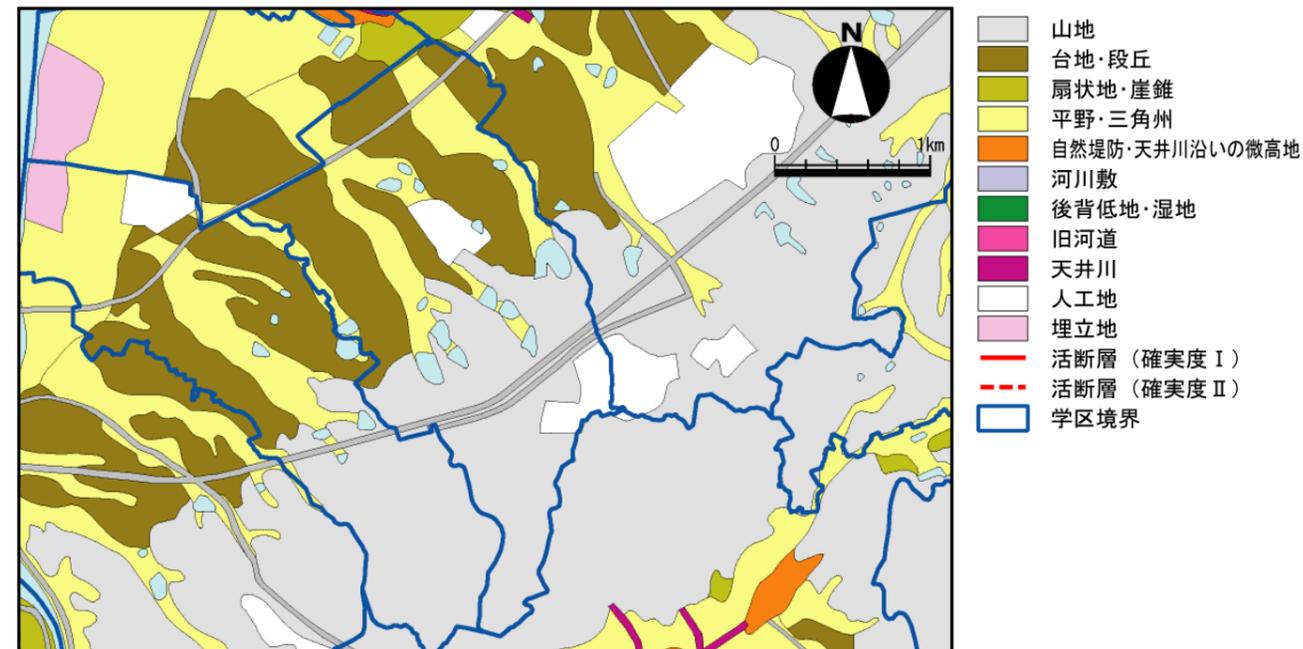
瀬田地域4学区制により平成3年4月に誕生した学区である。

かつては東海道沿いに開けたのどかな農村地帯であり、大津京に多量の製品を供給した山ノ神生産遺跡釜跡をはじめ、東海道一里塚跡などの史跡や街道の雰囲気を残している。

近年、JR瀬田駅の開設や京滋バイパスの開通などと、交通体系の整備、温暖な気候などの好条件が重なって住宅開発が急激に進み、人口は増加の一途をたどっている。

新しい洋風の家並みに続く山手には池や山林などが多く残っており、このような自然を生かして瀬田公園が整備され、市民の憩いの場となっている。また、丘陵地には大学、高校、近代美術館、県立図書館などの教育・文化施設や公園が整備され、文化ゾーンを形成している。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。  
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 瀬田東地域の地形は低地と台地と丘陵からなる。
- 台地の間には低地が細長く入り込み谷底低地となっている。一般には谷底低地は湧き水が豊富であり、そのほとんどは水田として利用されている。台地は中位段丘と高位段丘に細分される。
- 丘陵は瀬田丘陵と呼ばれ、全体として南側が大戸川に急崖を向け、北側は湖岸へ向かって緩傾斜をなす傾動地塊状の丘陵である。本地域の丘陵斜面は傾斜の緩い北側斜面にあたり、近年人工造成された文化ゾーンとして開発されている。

<地質の特徴>

- 瀬田丘陵は、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約200万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
瀬田南大萱町	-	-	-	-
瀬田月輪町	-	-	-	-
一里山一丁目	61.8	74.4	67.7	49.4
一里山二丁目	62.0	67.0	70.4	49.0
一里山三丁目	55.1	67.7	76.4	34.8
一里山四丁目	56.4	51.9	76.6	21.8
一里山五丁目	68.5	65.6	66.1	16.5
一里山六丁目	66.1	94.9	83.3	2.4
月輪一丁目	-	-	9.9	50.0
月輪二丁目	58.3	74.9	75.8	33.7
月輪三丁目	57.0	73.2	80.5	14.2
月輪四丁目	60.7	86.5	59.6	0.0
月輪五丁目	63.9	86.7	69.6	0.0
栗林町	115.0	93.9	53.9	43.7
学区平均	62.4	84.2	70.6	25.4
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 62.4 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 84.2% で市平均の 93.9% より低い。
- 木造率は、一里山六丁目 が 83.3% で最も高く、月輪一丁目 が 9.9% で最も低い。学区平均は 70.6% で市平均 72.7% より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、月輪一丁目 が 50.0% で最も高く、月輪四丁目～五丁目 が 0.0% で最も低い。学区平均 25.4% で市平均 40.3% を下回り、市内で 4 番目に低い。

■ 人口の状況

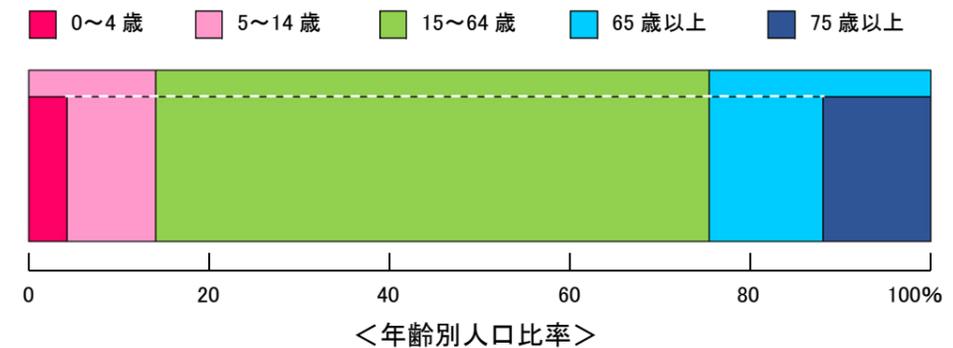
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	15,524	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	666	人	学区人口に対する割合	4.3	1
年齢別 (5~14 歳)	1,524	人	学区人口に対する割合	9.8	1
年齢別 (15~64 歳)	9,510	人	学区人口に対する割合	61.3	1
年齢別 (65 歳以上)	3,824	人	学区人口に対する割合	24.6	1
年齢別 (75 歳以上)	1,871	人	学区人口に対する割合	12.1	1
世帯数	6,943	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	2.2	人/世帯		-	2
要介護認定者	636	人	学区人口に対する割合	4.1	3
身体障害者 (要配慮者)	189	人	学区人口に対する割合	1.2	4
知的障害者 (要配慮者)	31	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	360	人	学区人口に対する割合	2.3	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区北部の平野・段丘部は人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 高齢者 (65 歳以上) は 3824 人、乳幼児 (0~4 歳) は 666 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 24.6%、4.3% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より高い。
- 要介護認定者は 636 人 (4.1%)、身体障害者 (要配慮者) は 189 人 (1.2%)、知的障害者 (要配慮者) は 31 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 360 人 (2.3%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
土石流危険渓流 <small>(注1)</small>	2 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	1 箇所	2
土砂災害警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	2 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <small>(注1)</small>	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） <small>(注1)</small>	0 箇所	3
雪崩危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
浸水想定区域 <small>(注3)</small> (0.0m~0.5m)	0 m <sup>2</sup>	6
(0.5m~1.0m)	0 m <sup>2</sup>	6
(1.0m~2.0m)	0 m <sup>2</sup>	6
(2.0m~)	0 m <sup>2</sup>	6
特に重要な水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
重要水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <small>(注1)</small>	7 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 瀬田東学区では土石流危険渓流が2箇所しかないため、土砂災害などの自然災害の発生する可能性が低い学区であるといえる。
- 市内でも人口が多い学区の一つであり、人口密度も高いが、避難場所が8箇所あり、十分な広さの避難場所が確保されているといえる。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急 避難場所	瀬田東小学校グラウンド	○	○	○		一里山二丁目 20-2
	瀬田東幼稚園グラウンド	○	○	○		一里山二丁目 20-1
	滋賀県立東大津高校グラウンド	○	○	○		瀬田南大萱町 1732-2
	月輪自動車教習所	○	○	○		月輪一丁目 6-1
	一里山公園	○	○	○		一里山三丁目 16
	月輪大池公園	○	○	○		月輪四丁目 1
	びわこ文化公園	○	○	○	○	瀬田南大萱町 1740-1
	瀬田公園	○	○	○	○	一里山六丁目 9 他
指定緊急 避難場所 兼 指定避難所	瀬田東市民センター	○	○	○		一里山三丁目 16-1
	瀬田東小学校体育館	○	○	○		一里山二丁目 20-2
	瀬田東幼稚園	○	○	○		一里山二丁目 20-1
	滋賀県立東大津高校体育館	○	○	○		瀬田南大萱町 1732-2
	一里山公園緑のふれあいセンター	○	○	○		一里山三丁目 16-1
指定避難所	瀬田公園体育館	○	○	○		一里山六丁目 9
	滋賀県立東大津高校柔剣道場 (福) 瀬田東児童クラブ			—		瀬田南大萱町 1732-2 一里山三丁目 4-1

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
瀬田東市民センター	一里山三丁目 16-1	545-9001

<警察 110>

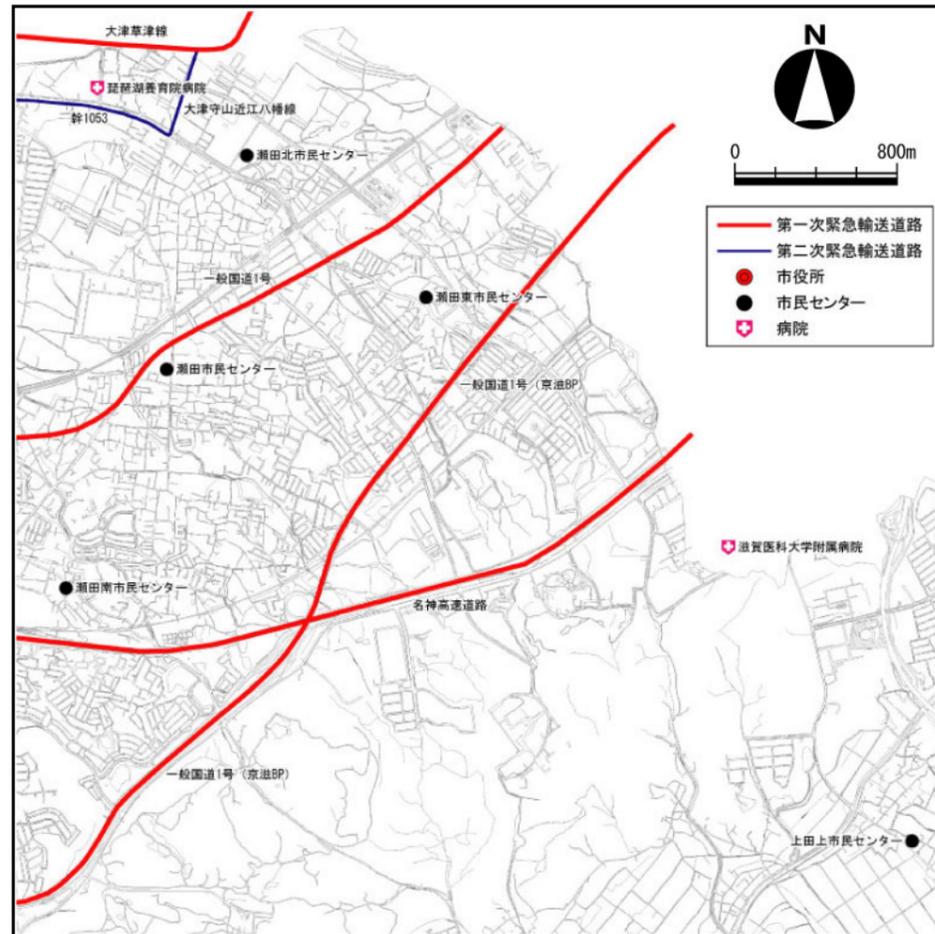
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
瀬田駅前交番	大萱一丁目 11-8	543-2940

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
東消防署	大江四丁目 18-1	543-0119
瀬田東分団	一里山三丁目 16-1	543-4021



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
滋賀医科大学附属病院		瀬田月輪町 548-2111	

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	4,230	13,994	1,536	995	2,034	55	34	38	175	123	121	9	6	6
ケース2	4,230	13,994	1,270	1,033	1,786	38	23	26	179	129	124	9	6	6
ケース3	4,230	13,994	602	1,042	1,123	14	9	9	290	174	201	16	10	11

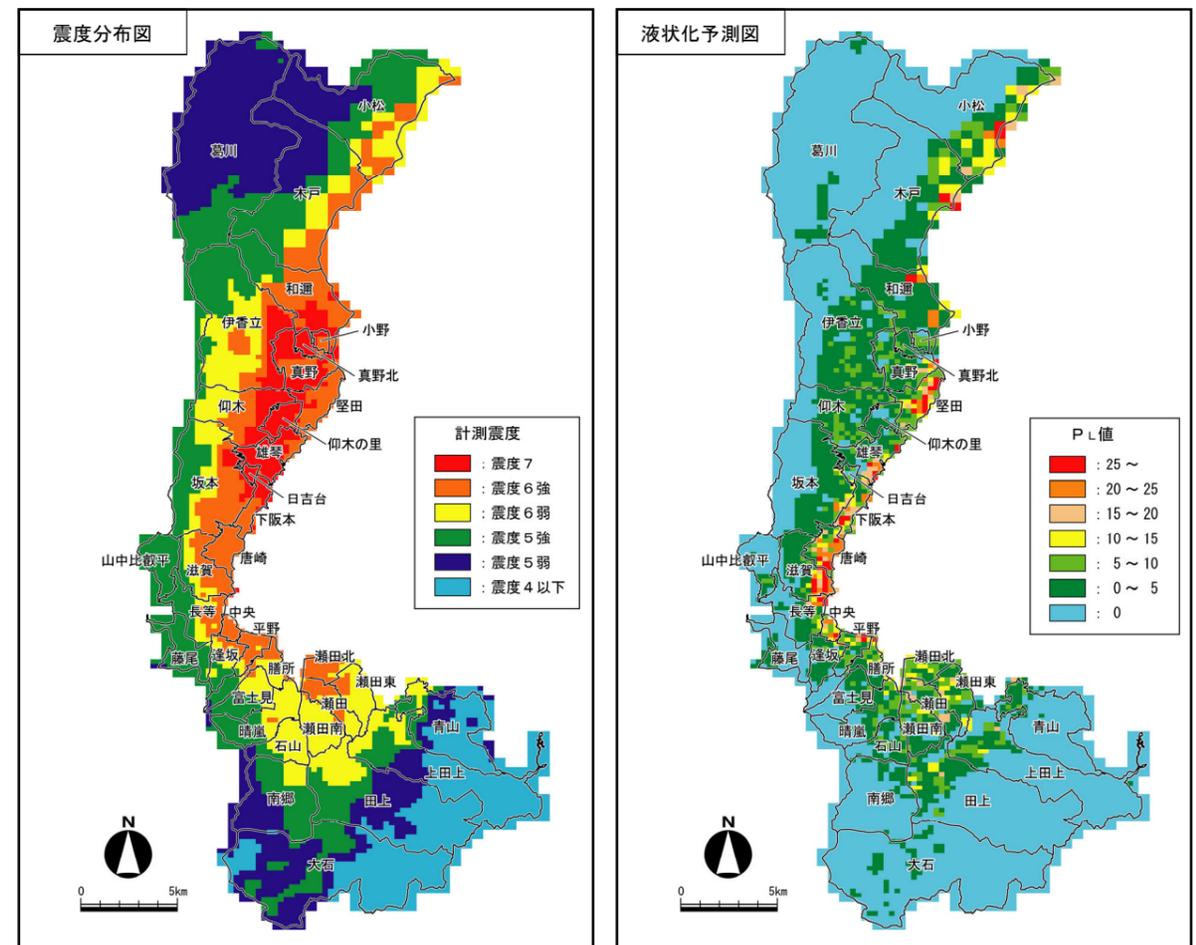
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	2	4	5	2,663
ケース2	1	3	4	2,414
ケース3	1	2	2	1,744

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

( PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生  
PL ≥ 20 激しい液状化 )

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

